

## 【V 考察】

### 「ボランティアの受入数」について

令和3年度のボランティアの総受入数は62,192人で、令和2年度の64,799人とほぼ変わらない結果（前年度比96%）となった。

これは、令和2年度に引き続き今年度もコロナ禍ということもあり、授業時数削減、ボランティア受け入れの制限、活動の自粛が続いている結果だと考えられる。

学習支援については104%（39,837人→41,420人）となっている。令和2年度とほぼ変わらないが、令和元年（68833人）からは60%になっており、コロナ禍の影響が続いている結果である。

読書活動については83%（24306人→20170人）となっており、コロナ禍で人を集めての活動の難しさが数値となってでている。

ノートテイクについては200%（2人→4人）となっているが、元々の人数が少ないため、あまり参考にならない。このまま継続し、増加していくことを期待する。

外国出身者支援については72%（549人→398人）となっており、休校等の影響が出ていると考えられる。

家庭教育支援が204%（98人→200人）となっており、子育てに悩む家庭の増加にともないボランティアも増加してきていることがうかがえた。

病院訪問学習支援については0%（7人→0人）となっているが、コロナ禍で病院内での支援ができないためである。

- 学習支援ボランティア（令和2年度比104%）
- 読書活動ボランティア（令和2年度比83%）
- ノートテイクボランティア（令和2年度比200%）
- 外国出身者支援ボランティア（令和2年度比73%）
- 家庭教育支援ボランティア（令和2年度比204%）
- 病院訪問学習支援ボランティア（令和2年度比0%）

コロナ禍であり、各校では感染対策を講じ、活動内容・活動方法を工夫しながら児童生徒の支援のためにボランティアを受け入れ、ボランティア自身も注意しながら活動している状態である。コロナ禍が収束するまではこの状態が継続していくと予想される。

## 「体験活動」について

令和2年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が続いているが、地域全体の体験活動の実施状況（回数・時間）については、やや増加している。（令和2年度比 実施回数：117.6%、実施時間：108.6%）

新型コロナウイルス感染症に対する慣れのようなものもあり、前年度と同様な結果になったものとする。

- 地域連携担当教職員が学校の窓口となって地域での活動をコーディネートし、体験活動等を進めている取組もあり、今後も継続して、地域連携担当教職員を中心とした地域と学校の連携・協働が図れるように努めていくことが望まれる。

## 「ボランティア活動」について

ボランティア活動の実施状況（回数・時間）についても、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな変化は見られない。（令和年度比 実施回数：101.7%、実施時間：104.9%）

- 地域から学校へ依頼のあったボランティア活動などが減少し、地域におけるボランティア活動の機会が減少している。
- 新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、児童・生徒や保護者、関わる地域の方々が安心して活動できるよう、内容や方法等を工夫していくことが望まれる。